



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

4. 全学補講 (2001年度)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 橋本, 慎吾 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/3399

4. 全学補講

留学生センター講師 橋本 慎吾

1. 前期

1.1. 補講コースの改編

1.1.1. 前年度の問題点

前年度の問題点として、これまで A～E の 5 レベルに分けて授業を行なってきたが、そのちょうど中間に当たる C・D レベルの受講者数が非常に少なくなったことが問題となった。

そこで今年度はまず、コースの改編として、この 5 レベル設定を見直すことにした。

1.1.2. コース改編

まず前年度までのクラス設定は以下のようであった（カッコ内はコマ数）。

主クラス：A～E の 5 レベル	A：ゼロ初級（4）	B：初級（4）
	C：初中級・研修コース A クラス修了者（4）	
	D：中級前半（3）	E：中級後半（3）
特別クラス：2 クラス	初級特別（2）	専門日本語（2）
医学部：A～C の 3 レベル	A：ゼロ初級（2）	B：初級（2）
	C：中級以上（2）	

前年度の問題点として、A・B クラスの人数が増え、E クラスも増えた一方、C・D クラスの人数が減った。特に C クラスの減少が著しかった。

C の減少は、A・B の進度が遅いことと、該当レベルの学生が研修コースの学内公募に流れたためであろうと考えられる。A・B の進度については、短期集中である研修コースが半年で初級教科書を終了するのに対し、補講の A・B では 2 期、つまり 1 年かけても初級教科書が終了しない。その結果、B を終えたところで受講を辞めてしまう学生や、自習して研修コースの既習レベルに入る学生が増えた。

その他、教科書が半期ごとに変わる、漢字を勉強したいなどの要望が多い、プレイメントテスト（以下プレメン）を毎回受けるのは大変、午後も開講してほしいとの要望がある（現在は全て午前に開講）、等の要望が学生から個別に出ていた。

そこで、主に 5 レベルの見直し、A・B の進度、技能別クラスの開講、の 3 点を考慮し、次のようにコース改編を行なった。

A・B	→ 従来通り 4 コマ ただし A・B で『みんなの日本語 I・II』を終える。 A 受講生は自動的に B へ（プレメン免除）
C・D・E	→ C・D の 2 レベルに変更。コマ数は各 3 コマ。 教材は通年で使用する（前期半分、後期半分）。

改編の要点を整理すると、初級以上のレベルを3レベルから2レベルに変更し、残った4コマで「漢字」「作文」などの技能別クラスを開講することにした。また、専門日本語などの特別クラスを一部午後に移行した。

1.2. 前期 スケジュール

1.2.1. 日程と時間割

以上の改編を行ない、今年度前期は以下の日程で行なった。

ガイダンス・プレイスメントテスト 4月5日(金)
 クラス発表 4月13日(金)
 授業開始 4月16日(月)

GWの週(4月30日(月)～5月6日(日))及び創立記念日(6月1日(金))は休講。

夏季休業 7月20日(金・祝)～8月30日(木)
 授業終了 9月21日(金)

[時間割]

	月	火	水	木	金
1 (8:50～10:20)	河地/A	六郷/C	伊藤/D		六郷/B
		三輪/A	富田/A		加藤/D
			河地/C		野原/特演
2 (10:30～12:00)	河地/初特	橋本 初特	伊藤/専日	杉山/B	加藤/C
		六郷/D	富田/特演		六郷/A
		袴田/B	藤江/B		
3 (13:00～14:30)	加藤/医A			伊藤/医A	
4 (14:40～16:10)	加藤/医B	藤江/医C	袴田/医B	伊藤/医C	
	加藤(豊)/特演	今井田/特演			
		袴田/専日			

表中、「初特」は初級特別(初級の場面会話クラス)、「専日」は専門日本語(専門に使える日本語を学ぶクラス)。

また「特演」とあるのは、「漢字」などの技能別クラスである。

1.2.2. 授業内容について

1.2.2.1. 主クラス(A～Dクラス)

A・B:『みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ』(スリーエーネットワーク)

2000年度後期のAが18課までしか終わっていないので、今期のBは18課開始。来期からAはⅠ, BはⅡを学ぶことにする。

これまで各課第3コマ目に「聴解・会話練習」を入れていたが、これを2課～3課に1回にする。聴解などは毎回の授業の中に折りこむ。

C:『中級から学ぶ日本語』(研究社)

D：『中級から上級への日本語』（The Japan Times）＋読解演習

週2コマ『中級から』を行なう。CDも活用する。

読解演習は、2000年度後期から行なっているものを1年単位で行なうこととする。

1.2.2.2. 特別クラスについて

専門日本語、初級特別の内容については従来と大きな変化はないが、初級特別については、授業で使用している会話教材をこの1年で整備し、印刷・製本することにした。この教材は補講コース担当の非常勤講師グループが作成し、改訂を加えながら使用してきたが、今までは授業ごとにプリントとして配布してきたため、「なくした」「忘れた」といったことが多かった。製本することによってなくしたりすることもなくなるであろう。

整備については前期に専任教官がこの授業に入って教材を改訂し、後期にもう一度使用してもらった上で最終版を作成し、年度末に印刷・製本を計画した。

1.2.2.3. 特演について

特演は、基本的に1コマ1技能で行なっていく。学生は、ニーズに合わせて選択受講することができる。

月曜日：漢字・読解

「漢字」は、非漢字圏であれば部首を見分ける練習、漢字圏であれば2字熟語→和語（修理する→直す）のペアを学ぶ。

「読解」は、できれば習った漢字を混ぜた読解文を読む。できるだけ固めの論理的文章を読む。

火曜日：ロールプレイ（機能別の会話練習）

水曜日：作文（レポート調の作文指導）

金曜日：視聴覚ベースの会話

1.2.3. 問題点

コース改編によって、あるレベルの学生数が極端に少ないといった問題は一応解決したと思う。

その他の問題として、夏期休業後に2週間ほど開講する授業への参加者が少なくなるという、以前からある問題が今年度もあった。これについては、来年度から岐阜大学の年間スケジュールが改編されることも考え合わせ、来年度以降の対応を検討したいと思う。

2.2001年度後期

今年度は基本的に通年で授業を進めていくことにしたので、後期は前期を引き次ぐ形で開講することになる。

2.1. 日程と時間割

10月 3日 (水)	ガイダンス・プレースメントテスト
10月 12日 (金)	授業開始
12月 22日 (土) ~ 1月 6日 (日)	冬期休業
1月 7日 (月)	授業再開
2月 21日 (木)	授業終了

[時間割]

	月	火	水	木	金
1 (8:50 ~ 10:20)	加藤 (豊) D	三輪 A	加藤 (豊) C	河地 C	杉山 B
	富田 A	野原 B	河地 A		伊藤 (専門)
		六郷 C			六郷 A
2 (10:30 ~ 12:00)	富田 B	六郷 D	加藤 (豊) B	河地 (初特)	伊藤 D
				杉山 (専門)	六郷 (初特)
3 (13:00 ~ 14:30)	加藤 (豊) (特演)	野原 (特演)	伊藤 A		
	加藤医 A	藤江 B			
4 (14:40 ~ 16:10)	加藤医 B	藤江 C	伊藤 C	橋本 (特演)	今井田 (特演)

2.2. 授業内容について

主クラスである A ~ D は通年で行なう。つまり、前期 A クラスだった学生は B クラスへ、B クラスだった学生は C クラスへ、自動的に進めるようにした。C・D クラスについては、内容的には前期の続きを行なうので、学生はこのまま C クラスに残るか、プレメンを受けて D クラスに移るかの選択ができるようにした。

- ・ A・B：『みんなの日本語』を 1 課 2 コマ。適宜復習・聴解練習を入れる。
- ・ C：『中級で学ぶ日本語』L12 ~ 1 課 5 コマ
- ・ D：『中級から上級への日本語』ユニット 5 ~ 1 課 8 コマ
- ・ 特演：今回は全部午後に実施することにした。

月：読解 火：視聴覚 木：生活漢字 金：ロールプレイ

2.3. 問題点と来年度の課題

今年度は大きなコース改編を行なった。その結果、コース編成時の学生数のばらつきはある程度なくすことができた。コースを通年にしたことや、主に初級クラスのプレメンを免除し、自動的に上に進めるシステムにしたことはコース運営にうまく機能したと思う。また、午後に開講した「特演」も多く受講生が集まった。来年度も午後開講を続けることにする。

依然残る問題点もある。例えば、受講生の出席、特にコース終了直前 2 週間に学生が大幅に減る。これは前期、後期ともに見られる傾向である。特に初級終了以上 (C・D クラス) や専門日本語の受講者の現象が著しい。補講という性格もあって、規則を作ったところで出席率を維持することは期待しにくい。この点は、修了要件が厳しい研修コースや、単位が出される全学共通教育などと異なる点である。今後も考えていかなければならない問題である。

もう一つの問題として、従来補講コースを受講したであろう学生が日本語研修コースを受講する、という問題がある。

現在留学生センターでは、未習者から中級レベルまでを受け入れるコースは2種類あり、一つはこの補講コース、もう一つは日本語研修コースである。研修コースは大使館推薦の国費留学生の予備教育を実施するためのコースであるが、学内公募での受け入れも行なっている。研修コースについての詳細は別章を参照いただくとして、岐阜大学の留学生にとって、この2つのコースはどこが違うのか、という疑問がよく出される。そこで研修コースの学内公募と補講コースの違いを、以下のように整理してみた。

	研修コース (学内公募)	補講コース
受講資格	研究生, 院生, 交換留学生	研究生, 院生, 交換留学生, 聴講生, 科目等履修生, など
週当たりコマ数	未習 18 コマ, 既習 10 コマ	3 ~ 4 コマ
告知方法	指導教官宛メール, 学部宛文書	学部などにガイダンス日程等を掲示
申請方法	指導教官からの申請のみ (学生からの直接申請は受け付けない)	学生が直接申請
申請期限	あり (以降の申請は認めない)	なし (ガイダンス後も随時申請受付)
定員	あり	なし
修了要件	出席率, テストなど	出席率
進度 (初級のみ)	半年で初級終了	1年で初級終了 (今年度から)

「受講資格」は補講コースのほうが緩い。上記以外に、人数に余裕があれば研究者や教官、留学生の家族なども受け入れている。また、補講という性格上、申請期間や定員も、遅れて来日する学生に対処するためには厳しく設定することは難しい。

最も違うのは申請方法で、研修コースは原則として指導教官からの要請で学生を受け入れるもので、学生が直接申請することはできない。この点が補講コースとは大きく異なる。

しかし、以上のような相違点は、学生にとってはあまり重要な点ではない。学生にとって一番重要な点は、半年後、1年後の日本語習得状況であり、それを考える上で、進度と週当たりコマ数がいちばん気になるところである。研修コースは短期集中コースなので進度もちろん異なるが、特に初級などは文法以外に技能別クラスやパソコン演習などもあり、充実した内容を半年間学ぶことができる。一方補講コースは本来、学究に忙しい学生が合間を縫って日本語を学ぶ機会を提供するコースであり、週当たりコマ数を増やしたり進度を速めたりすることはなかなか難しい。言い換えれば、何らかの理由で早急に日本語能力の向上が必要なのであれば、補講コースでは十分に機会を提供できないので、指導教官を通じて研修コースに応募するのが望ましい。

こういった2つのコースの性格の違いを、指導教官にも学生にも分かる形で示すことが必要である。その上で、センターとしてそれぞれのコースの運営を考えていくべきであろう。うまく「すみわけ」ができるように。